

乳児期のステロイド使用後に浸出液とヘルペス症状を経験した小児アトピーの経過 (2歳男児)

症例 ID：001-02-ET | 記録日：2006年3月5日

1. 診断・治療前経過

生後2か月頃から頬が赤くカサカサするようになりました。皮膚科では脂漏性湿疹とされ、キンダベートが処方されました。塗ると湿疹はいったん消えましたが、塗らないと再び出る状態でした。

その後、別の皮膚科でもキンダベート、ワセリン、サトウザルベの混合などが処方され、さらにステロイドを使わない治療を探して複数の医療機関を受診しました。総合病院では衣類・入浴・ミルク・食物の管理を細かく指示されましたが、両足から浸出液が1か月ほど続きました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	キンダベートを頬の湿疹に使用しました。別の皮膚科でも悪い日はキンダベートを使う方針でした。
製品名	キンダベート。
強度	不明です。
使用期間	生後数か月頃から使用しました。
中止時期	松本医院受診前後に中止。
来院前／後	来院前に使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後2か月頃	来院前	頬の赤みとカサカサが出ました。
皮膚科受診後	来院前	キンダベートを使うと湿疹は消えましたが、中止すると再び出ました。
その後半年ほど	来院前	複数の医療機関・漢方薬局を受けましたが、両足からの浸出液が続きました。
2004年11月21日	治療開始	松本医院を初診し、漢方入浴、消毒、外用処置を始めました。
開始後3日頃	初期	出ていた浸出液は止まりました。顔・腕・両足の消毒には時間がかかりました。
開始後5か月頃	経過中	発熱が続き、肺炎で入院しました。
その1か月後	経過中	再び発熱し、腕に水疱ができて指や体へ広がり、ヘルペス症状で入院しました。
開始後7か月頃	経過後半	あまり痒がらなくなり、太もも内側・肘・足の甲に若干の傷が残る程度になりました。
開始後11か月頃	経過後半	入浴頻度を減らす話が出る段階となり、食物摂取後の口周りの赤みも短時間で引くようになりました。

4. ピーク時期

症状が強かった時期は、来院前に両足から浸出液が1か月ほど続いた時期と、治療開始後に発熱・肺炎・ヘルペス症状で入院した時期です。

5. 困りごと

- ・乳児にステロイドを使うことへの不安がありました。
- ・複数の医療機関で衣類、入浴、ミルク、食物などの管理を細かく求められ、保護者の負担が大きくなりました。
- ・治療開始後も消毒・外用処置に時間がかかり、肺炎やヘルペス症状で入院する時期がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始後3日ほどで浸出液は止まり、その後は肺炎やヘルペス症状で入院する時期を経ましたが、7か月頃にはあまり痒がらなくなり、11か月頃には入浴頻度を減らす話が出る段階になりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。